



社団法人 日本化学工業協会

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目4番1号 住友不動産六甲ビル7階
TEL:03-3297-2555 FAX:03-3297-2615 URL: <http://www.nikkakyo.org/>



平成21年10月15日

ーアジア太平洋地域の化学産業におけるRC活動発展を目指してー

『第11回アジア太平洋レスポンスブル・ケア会議 (APRCC) 2009』を日本で開催

同時開催: アジア太平洋レスポンスブル・ケア機構(APRO)定例会議

ICCA プロダクトステewardシップ・ワークショップ

日本レスポンスブル・ケア協議会
(社)日本化学工業協会

日本レスポンスブル・ケア協議会と社団法人日本化学工業協会では10月19日(月)と20日(火)の2日間、アジア太平洋地域の化学産業におけるレスポンスブル・ケア(RC)活動^{※1}の推進と発展を目指す『第11回アジア太平洋レスポンスブル・ケア会議(APRCC)2009』を、ロイヤルパークホテル(東京都中央区)にて開催いたします。

APRCC(Asia Pacific Responsible Care Conference)は、アジア太平洋地域の化学産業の持続可能な発展に向けて各国におけるRC活動の情報発信と共有化を図る目的で開催している国際会議です。1995年に香港で第1回が開催され、その後、2003年に、開催支援組織として12カ国の化学工業協会から成る“アジア太平洋レスポンスブル・ケア機構(APRO/Asia Pacific Responsible Care Organization)”^{※2}が設立されました。日本は、昨年4月からつとめているAPROの議長国として、今回のAPRCCを日本で開催いたします。日本での開催は、1997年に続き2回目、今回は国内170名、海外50名の、計220人以上の化学業界関係者が参加する予定です。

アジア太平洋地域は、世界の中でも経済発展及び化学産業の発展が最も著しい地域のひとつであることから、この地域でのRC活動は国際社会の中で大きな役割を持つようになってきました。日本の化学産業は、早くからRC活動に真摯に取り組み、マネジメントシステムや化学物質の安全性確保において着実に成果をあげています。これらの成果を、日本がリーダーシップを発揮して情報発信し、共有化に努めることは、アジア太平洋地域の化学産業全体の発展、また、日本の化学産業の持続可能な発展において極めて重要だといえます。

第11回APRCCでは、アジア太平洋地域におけるRC活動のさらなるレベル向上を目指し、「社会との対話」、「保安防災」、「労働安全衛生」、「レスポンスブル・ケアとRCマネジメント」、「温室効果ガス削減」、「化学品安全」をテーマに各国の現状や課題を発表します。また、10月18日(日)には同会場にて、APRO各国の協会責任者によるAPRO定例会議を開催するほか、10月21日(水)には、国際化学工業協会協議会(ICCA)が推進しているレスポンスブル・ケア世界憲章とグローバル・プロダクト・ストラテジー(GPS)への理解を深めることを目的とした、『ICCA プロダクトステewardシップ ワークショップ』を開催いたします。

※1…… 化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動のこと。日本は1995年に日本レスポンスブル・ケア協議会を設立し、RC活動を推進している。

※2…… 日本、韓国、台湾、中国(AICM)、タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、インドネシア、インド、ニュージーランド、オーストラリアの化学工業協会が構成され、日本、シンガポール、ニュージーランド、オーストラリアの4カ国が持ち回りで議長国を務めている。

本件に関するお問い合わせ・取材等の申し込み先:

社団法人 日本化学工業協会 広報部/井上 TEL.03-3297-2555

アジア太平洋レスポンシブル・ケア機構（APRO）定例会議

10月18日(日) ルーム名:春海		
18:00～19:00	APRO会議	APRO会員

第11回アジア太平洋 レスポンシブル・ケア会議（APRCC）2009

10月19日(月) ルーム名:ロイヤルホール東			
9:00	開会 ● 開会挨拶	日本レスポンシブル・ケア協議会 事務局長／ (社)日本化学工業協会 専務理事	西出 徹雄
9:10	● 基調講演 1	経済産業省 製造産業局 化学課長	高田 修三
9:20	● 基調講演 2 ICCA-RCLG と APRO の最近の活動	RC LG 副議長／APRO 議長 住友化学(株)執行役員	塩崎 保美
9:50	● 招待講演 世界憲章に基づく米国での レスポンシブル・ケア活動の進展状況	ACC(米国)	Debra Phillips
10:20	コーヒーブレイク		
	セッション:社会との対話	議長:日本レスポンシブル・ケア協議会	吉原 紀幸
10:40	● 日本の地域対話の歴史と現状そして課題	熊本大学教授	外川 健一
11:00	● 昭和電工における地域コミュニケーション	昭和電工(株)	木村 真
11:20	● 社会との対話;住民の知る権利	NZCIC(ニュージーランド)	Barry S Dyer
11:40	● 社会との対話;インドの例	ICC(インド)	Vijay Bukkavar
12:00	質疑		
12:30	昼食		
	セッション:保安防災	議長:三菱ガス化学(株)	小島 孝
13:30	● 定量的リスクアセスメント	Samsung Total Petrochemicals Co. Ltd.(韓国)	Jaehak Lee
13:50	● 災害防止のための設備安全設計	ScinoPharm/TRCA(台湾)	Freddie Yeh
14:10	● 保安防災－課題と今後の展開－	東京大学名誉教授	田村 昌三
14:30	質疑		
15:00	コーヒーブレイク		
	セッション:労働安全衛生	議長:旭化成(株)	佐々木 正和
15:30	● レスポンシブル・ケアの一環としての 労働安全衛生	ICC(インド)	M.V.Rege
15:50	● マレーシアでの労働安全衛生	CICM(マレーシア)	Harminder Singh
16:10	● HPC の安全文化	Honam Petrochemical Corp.(韓国)	Youngsam Kong
16:30	● 旭化成における化学物質による健康障害 防止の為のリスク管理	旭化成(株)	鶴田 巖一
16:50	質疑		
17:20	19日のAPRCCプログラム終了		

10月20日(火) ルーム名:ロイヤルホール東

	セッション:レスポンシブル・ケアとRC マネジメント	議長:NZCIC(ニュージーランド)	Barry Dyer
9:30	● タイでのレスポンシブル・ケア活動の現状とこれから	RCMCT/CIC/FTI(タイ)	Chalerm Sak Karnchanawarin
9:50	● マレーシアでのレスポンシブル・ケア活動	CICM(マレーシア)	Sobri Ahmad
10:10	● インドネシアでの持続可能なRC検証	KN-RCI(インドネシア)	Frank Moniaga
10:30	コーヒーブレイク		
10:50	● フィリピンでのレスポンシブル・ケア活動	SPIK(フィリピン)	Teresita Corpuz
11:10	● 中国でのレスポンシブル・ケアの実施状況	AICM(中国)	Johnny Kwan
11:30	質疑		
12:00	昼食		
13:30	会長挨拶	日本レスポンシブル・ケア協議会会長/ (社)日本化学工業協会会長 住友化学(株)会長	米倉 弘昌
	セッション:温室効果ガス削減	議長:宇部興産(株)	片桐 光太郎
14:00	● 地球温暖化に対する化学産業の対応	(社)日本化学工業協会	吉清 元造
14:20	● 気候変動に対するLG化学の戦略	LG Chem., Ltd. (韓国)	In Park
14:40	● 旭化成のLCAによる化学製品からの温室効果ガス排出量評価	旭化成(株)	中橋 順一
15:00	● 花王の温室効果ガス削減	花王(株)	柳田 康一
15:20	質疑		
15:50	コーヒーブレイク		
	セッション:化学品安全	議長:三菱化学(株)執行役員	春山 豊
16:10	● 住友化学の化学品安全管理の取組みーサステイナブル・ケミストリーの推進	住友化学(株)	坂田 信以
16:30	● 三井化学の化学品安全管理の取組み	三井化学(株)	高橋 正
16:50	● 三菱化学の化学品安全管理に関する貢献活動	三菱化学(株)	原田 靖之
17:10	● 富士フイルムの化学物質管理	富士フイルム(株)	中井 泰史
17:30	質疑		
18:00	APRCC 閉会		

I C C A プロダクトステewardシップ ワークショップ

10月21日(水) ルーム名:ロイヤルホール東			
9:00	開会挨拶	RC LG 副議長／APRO 議長 住友化学(株)執行役員	塩崎 保美
9:15	● GPS とは何か？ 何故、実施するのか？ -ICCAの紹介とGPS活動について	(社)日本化学工業協会	小倉 正敏
10:10	コーヒーブレイク		
10:30	● プロダクトステewardシップ何をすべきか？ -ICCA PSガイドラインの紹介	(社)日本化学工業協会	佐々木 幸雄
11:30	● 化学物質のリスクをどのように評価し管理するか？ -リスク評価による化学物質管理の 基本的な考え方と方法	住友化学(株)	佐藤 雅之
12:30	昼食		
13:30	● リスクの評価とリスク管理のケーススタディ -化学物質のリスクアセスメントと “Pizza Pan Case Study”	タウ・ケミカル日本(株)	今井 克己
14:50	コーヒーブレイク		
15:10	● GPS/PS - 現状とこれから - ICCA の GPS リスクアセスメントガイドライン -情報収集と共有化のフレームワーク、 ベースセット情報とリスク評価	(社)日本化学工業協会	庄野 文章
16:10	総括	CP&H CB-TF 議長 三菱化学(株)理事	松田 潔
16:30	ワークショップ閉会		